

「人・農地プラン」の実質化に向けた取組 (奈良県宇陀市農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

【農業委員会の体制】

○農業委員12名、農地利用最適化推進委員27名

1 地区の特徴・状況、課題

○ 奈良県の北東部に位置し、三重県名張市に接している。面積は247.50km²で奈良県全体の6.7%を占めている。農地面積は2,737ha。山林が市全体の72%を占める中山間地域であり、担い手不足や獣害被害により、遊休農地、耕作放棄地が年々増加している。

○ 水稻や、施設による軟弱野菜、露地での黒大豆、ダリアなど多く栽培されている。



2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

○ 「人・農地プラン」の実質化を進めるため、すでにプランを策定している集落から、関係機関(市農林課、県東部農林振興事務所、農地中間管理機構)と農業委員・推進委員が、農業者の話合いに参加し、「人・農地プラン」の実質化の必要性を周知した。また農業者に対し、地域の将来における農地利用のあり方や、農地中間管理機構の活用についてなどのアンケート調査を行った。

3 活動(取組と工夫)の結果

○ アンケート結果から、地域農業の問題点を確認し、また農地中間管理機構の活用方針を決めることで、地域農業の将来のあり方を明確化し、課題と取組を共通認識することができた。

「人・農地プラン」の実質化地区・・・19地区(令和2年3月31日現在)